

## 「令和3年度かかりつけ医・かかりつけ薬剤師のための医薬品適正使用セミナー」の開催について(奈良県)

講演日時:2022年2月12日(土)14:30~16:20

場 所:奈良県医師会館 ※ハイブリッド形式としてウェビナーによる開催

テ ー マ:「ジェネリック医薬品の信頼回復」に向けた日本ジェネリック製薬協会の取り組みについて

共 催:奈良県、奈良県医師会、奈良県薬剤師会、全国健康保険協会奈良支部

対 象:医師、薬剤師

講 師:田中 俊幸(日本ジェネリック製薬協会 政策委員会政策実務委員長兼広報委員長)

概 要:奈良県で開催された「かかりつけ医・かかりつけ薬剤師のための医薬品適正使用セミナー」において医師・薬剤師の皆様にご協会の取り組みについて説明しました。

参加者:当初応募は約250名(内、医師が約70名)

実際の傍聴は181名

(講演実施後にいただいたご意見)

- 非常にわかりやすい説明。協会として矜持を正した素晴らしい発表だったと思う。
- 日医工や小林化工以外にも、2021年以降、都道府県が実施した無通告査察でも様々な不正が見つっている。なぜ全国規模でこのような問題が起こったのか?このようなことが起きたことの背景に構造的な問題があるように思うが、これについて分析できているか?講師の見解を聞きたい。
- 安定供給までには2~3年かかるとのことであり、その対策などもお聞きしたが、現場ではジェネリック医薬品不足が解消してきたという温度感は全くない。日立物流の火災の影響で日本ジェネリックの出荷停止、また、原薬不足(共和薬品の販売停止等)など、益々、状態は悪化しているように感じるが、安定供給は、実際あと何年くらいで解決しそうか?
- このような状況の中、国の対応が甚だしいと思うところある。未だに、ジェネリック医薬品の全都道府県80%の目標が再考されていない。また先日も「後発医薬品調剤体制加算」の後発品の調剤数量割合の基準の引上げが行われたとも聞く。